

8

No. 62

千代田区報

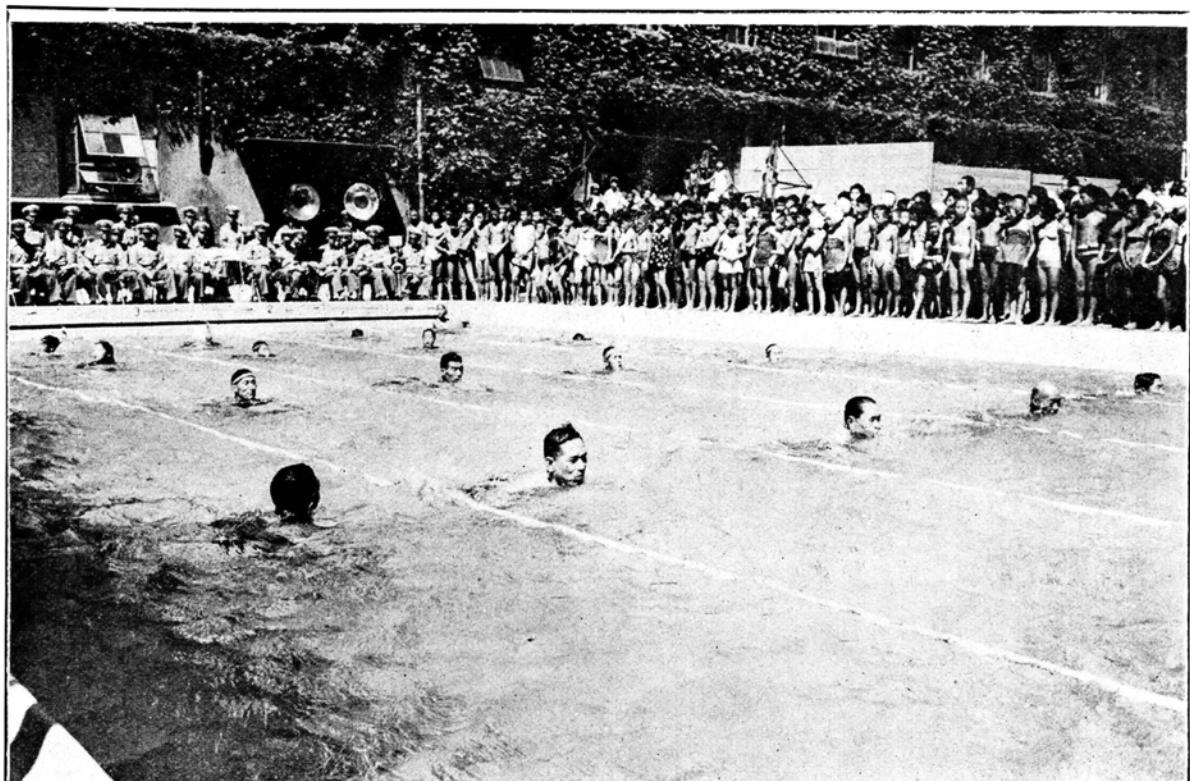
昭和33年8月30日

千代田区役所

発行

九段33局 0151
8531

毎月1回



第六回 学童皆泳大会 —村瀬区長も試泳—

国民皆泳週間にちなみ、8月20日一ツ橋中学校プールで第6回学童皆泳大会が開かれました。皇宮警察本部音楽隊の奏するファンファーレを合図に、灘尾文部大臣、樋口日水連会長のあいさつの後、試泳が行われ、村瀬区長はじめ学校長など大会役員が一斉にプールに飛び込み、ストロークも鮮やかにコースを泳ぎ切りました。この後、学童による各種の競技演技がくりひろげられました。(写真は大会役員による試泳、前列左から二人目村瀬区長)

料理教室 九月三日から十月三十日まで錦華小学校で開かれる。水曜コース・木曜コースとあり、両コース共毎日午後六時から。内容は、食品の衛生管理、お好み家庭料理と季節料理の授業などで、聴講は無料。以上いずれも申込は、千代田区役所内区教委会で受付ける。資格は区在住在勤者。

成人学校 九月十一日から十月三十日まで、毎週火・木曜日の午後六時より八時、神田小学校で開かれる。和裁、ペン習字、簿記の三課目で、会費は無料。



千代田区国際貿易促進議員
八月十四日午後二時議員
控室 日中貿易再開促進
バス陳情行進について



奥日光キヤンプ行

千代田区教育委員会



山の家

は、日直教諭の指導下に入動は、常に正しい秩序をたてた。日程については毎夜毎夜消燈後引率教諭が本部(教委・主事校長)に集つて、綿密な合せを行つてできめたことは必ず実施にうつすこととした。

三日　たどりついた。山の天気は変りやすいということを如実に経験し、わけだが、この試練にめげず闘争をもやして意氣さかんであつたことは、のちになつて大部効目あつた貴重なものであつた。

五
日

の呼物はキヤンブ
ファイアード
カーフィン

で宿舎に着いた、細心の注意と貞
越した指導力で各班を統率した生
方、さかんなファイトをもやし
て最後までくじけなかつた生徒た
ち、宿願を達した喜びでの顔も
はれやかだつた。

雷雨となり這々の体で引き返したが、林間の小径は忽ち川となり耳をつんざく雷鳴にさらされながらを全員なれねずみになつて山の家に

迷わず前にコースをとつた。
しかし白根にはいつもみれんがお
つた。七月のはじめこのキヤンブ
の最初の打合せ会を待つたとき、

な山氣だつた。

四
日

は待望の前白根登
山、標高二三七七
メートルの開拓者。

三
日

すだ。静かな湖のほとりで鷺のさえずりに聞きはれながらまず班毎にかまどを設営して飯ごと炊さんにとりかかり、前日の炊さん練習で大分うまくなつて煙にいぶされることなく、「オナカが空いた、腹ペコだ!」の歌にはしやいで班毎に円陣をつくりたのしい食事をした。大切なことはあとしまつと清掃、これも日課のうちなので千代田区の中学生が去つたあとは実にきれいだということを忘れずに、午後二時キヤンブソングの合唱をしながら帰路についた。

三
日

は三ツ岳の北麓刈込湖に、これは中学生なら楽なコー

生の先生をあてる。休憩を充分にとつて前後の調節をはかり所要時間は往復八時間とする。雨具の用意をするが天候に注意しそれに即応する行動をとる。全員を登山させることなく、運営の意見をきいて引率の先生がきめることなど細部にいたるまで打合せをしていよいよ決行することにきめたのである。

参加者八五名(不参加者は僅かに四名)、一番心配した天候も毫らずのこともなく八時十五分山の家を出発した。白根沢のガレ場で大休止、そこから右折して天狗平を

五 日 の呼物はキヤンブニアードだ。このキヤンブニアードは、さかんにアーティストをもやめ、最後までくじけなかつた生徒たち、宿願を達した喜びでどの顔もはれやかだつた。

教育委員会では八月一日から六日まで五泊六日の日程で中学生のキャンプ会を、奥日光湯元山の家で実施した。このキャンプは千代田区の旗の下に、友情、團結、協力、責任、を四本の支柱として区立中学の五校が連合して共同生活を営むことに特色がある。今年は八九名(男七一女一八)参加した。各校別に班をつくつたが、対抗意識をなくすため校名を冠せずに第一班第二班などと呼ぶことにした。班長をおいて、点呼、食事当番、清掃当番、入浴順序など自主的運営を推進せながら各校の引率教諭に直結するように、また統一行

浴、自由時間、九時消灯就寝が骨子になつてゐるが、大いに歩いて自然観賞の機会を持つことが大きな目的があるので山歩きの時間を多くとることに重点をおいた。

四 日 山 標高二三七〇米は待望の前白根谷山である。この白根は一昨年も駿河の関東届指の高画したが、現地の指導員に、東京の中学生で百名からの大部隊ではちよつと無理なところもあるのではないかと大事をとられ、もつとその一週間前どこかの女学生の遭難があつてその指導員が救出に当つたとの話にすつかり怖氣づいて、無難な金精——菅沼コースにきめたいきさつもあつた。去年は

至るまでは、木の根につかまりけり。いざつて仰ぐような急坂の苦しい登りの連続だったが、一人の落伍者もなく十一時三十分には待望の山頂をきわめた。折あしく下界にはガスがかかつて折角の眺望がきかなかつたのは残念だったが、ひとときわ高い奥白根の偉容が目の前にそびえ立ち、まるかに見下せば、あくまで清澄な五色沼が神秘的のか水の色をたたえて光っていた。汗もつかれも苦しさも一気にふきとんで、たとえようもないさわやか

した。朝の日課が終ると、各班は思い思いのところに陣取つてキヤンブソングとスタンツの練習に全念がなかつた。午後七時三十分、夜のとばかりにすつかりとざされた闇の中を静かに行進して四陣をつくつた。おごそかな点火の儀式、このキャンプ精神を象徴する友情、団結、協力、責任の四つの火が一齊に点せられた。燃え上る東紅の炎、天までこがせとの大会唱、緊張した顔と顔が感激にはて

台風にそなえて

街路樹をいたわりましょう

先ごろの台風十一号で、都内の街路樹は大きな被害をこうむり、千代田区でも千三百本の植木が被害を受け、復旧工事でやつと立直りました。しかし、これも付近の人たちよとした心づかいから、支柱を当てがらなどの措置をとれば、その被害をもつと少くすることができるのではないか。都建設局では、今秋から五ヵ年計画で約四万本の樹木を植え、道路の美化をはかるうとしている折から、住民のかたがたの街路樹愛護が望まています。

〔応急措置〕

以上は、措置のほんの一例です

▽全倒したものは、倒れたまま歩道上に道路と並行に置きかえる。この際、根はていねいに扱う。

以上は、措置のほんの一例です。が、街路樹に関するご連絡は、区役所土木課公園係(337二五九・八五三一)又は、最寄の出張所へお願いします。

お魚の買物は容器持参で!!

一区婦人団体が提唱

魚屋さんで買物をすれば、「はいお待ちどうさま」と、買ったお魚を必ず経木に包んでくれるもの、ところが、この経木は持帰れば、湾、韓国、樺太、千島などの輸入品を食べていること」などの事情を説明、また「店舗も改造したいが資金の面でなかなか用

ぐに捨てられてしまつて不経済な
ばかりか、不衛生だから、お魚を
買うときには必ず容器持参という
ことにしてはと、このほど区婦人
団体協議会が提唱した。

これは、去る八月十三日夜、神田小学校で開かれた「千代田区婦人団体協議会」と神田地区魚商組合との懇談会で、問題になつたもので、当日は、婦人団体側から五十六人の主婦、業者側からは、魚商組合神田支部長をはじめ二十六人が参加して行われた。

そして最後に「魚屋さんが包装に使う絹木は、どうもあまり衛生的ではないから、魚を買いくらいに行くときはぜひ容器持参といふことにとどめよ」という意見があつた。この意見が、おまけに、魚の匂いを防ぐ効果があるなどと説かれていた。

家庭の主婦にとつては、台所に密接なつながりを持つ懇談会とあつて、話し合いも終始熱心に進められ、ます「魚類は他の食料品にくらべて高いのではない、か」「ハエの防止に工夫してもらいたい」「ふきんや桶水がきらい」「土房さん、よく来つよ。」加者の関心を呼び、結局、この旨を広く区内の婦人層に呼びかけ、つとめて魚の買物には容器持参を実行してもらい、同時に魚屋さんの店頭にも、千代田区婦人団体協議会の名で「容器持参」のビラを貼ることを申し合つよ。

れない」「牡蠣などは水につけないで欲しい」などの主婦側の注文に対し、業者側から、魚類のねだんの高い理由として、「漁区が狹くなつたこと」、「台

並木育てて 明るい暮らし

在する都心区だけに、都市の美観を添える意味で当然のことですが、それだけにまた、これらの街路樹を痛めないように気を配らなければなりません。それには、区民の皆さんの樹木愛護が欠かせない条件となつてきます。たとえば、商店街のアーケード建設などでせつかくの街路樹が

いたぐるなど、区民のみなさん
街路樹愛護を要望しています。
〔予防措置〕
▽ 捆え木を結んである繩が切れ
たり、ゆるんだりしている場
合は、素繩で結ぶ
▽ 捆え木のない植木は、電柱や
他の街路樹の根本からトラ網
を張る

進められ、ます「魚類は他の食料品にくらべて高いのではないのか」「ハエの防止に工夫してもいいたい」「ふきんや桶水がきたない」「牡蠣などは水につかないで欲しい」などの主婦側の注文に対し、業者側から、魚類のねだんの高い理由として、「漁区が狭くなつたこと」「台

持參を実行してもらい、同時に魚屋さんの店頭にも、千代田区婦人団体協議会の名で「容器持參」のビラを貼ることを申し合せた。

現在、千代田区内の道路や公園に植えられて
いる樹木の数は、すずかけ、いちょう、桜、
柳など約九千七百本で、一時は戦災で五千
本近くにも減つたものが、今ではほぼ戦前並
の一万本に近づいています。東京都全体の植
木の数は九万三千本ですから、千代田区だけ
でその一割を占め、二十三区内最も多くの街
路樹を抱えていることになります。これは、
皇居をはじめ、諸官庁ビルスセンターの存

風などの場合は、不可抗力、当時の管理不足などの点もあげられます。が、それしても付近の人のよつとした気の配りよりで、植木の被害を最少限に食いとめるこ^{とも}もできるわけです。

ところが、この経本は持帰ればすぐに捨てられてしまつて不経済なばかりか、不衛生だから、お魚を食べうるときには必ず容器持參というにしてはと、このほど区婦人団体協議会が提唱した。これは、去る八月十三日夜、神田学校で開かれた「千代田区婦人団体協議会」と神田地区魚商組合と懇談会で、問題になつたもので、当日は、婦人団体側から五十五人の主婦、業者側からは、魚商組合神田支部長をはじめ二十六人が参加して行われた。

毛代田区の人口 (8月1日現在)

		前月	本月	差増	引減
世帯数		26,200	25,777	—	223
人	男	68,354	67,870	—	484
	女	53,374	53,071	—	303
口	計	121,728	120,941	—	787